

## 平成30年度千葉市芸術文化振興事業補助金 事業実施報告について

## 1 市民参加事業 申請事業数9事業、採択事業数6事業

(1)

行 事 名	第50回千葉市水墨画同好会連合会展
日 時	平成30年7月10日(火)～7月16日(月・祝)
会 場	千葉県立美術館 4、5、6、7展示室
主 催 団 体	千葉市水墨画同好会連合会
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	水墨画同好会連合会会員及び公募による水墨画・墨彩画・表装(掛軸)の展示や、来場者への水墨画体験教室を行った。展覧会鑑賞料、体験教室ともに無料。 出展数 計492点(公募作品35点)
事 業 実 績	出展者 235名(一般参加者37名) 来場者 1,615名 体験教室参加者 105名(児童13名)
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会期中の行った体験コーナーは、特に土日には多くの子供も訪れ賑わい、墨で描く水墨画を楽しんで頂いた。一般市民の日本の伝統芸術文化の水墨画に関する関心の強さが窺えた。</li> <li>・今後共、体験コーナーの拡充(全面的にテーブル/椅子席の用意、要員増強等)を図っていく。</li> <li>・今回は50回の記念展として連合会関係者による特別出品を行ったが好評だった。今後共、特別出品を進めていきたい。</li> </ul>
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別出展の作品は他の展示作品と比較すると非常に大きく、2枚の水墨画を繋げることで一つの作品になるといった迫力のある作品が展示されていた。</li> <li>・観賞者は高齢層が多いものの、多くの人が訪れていた。</li> <li>・各作品には出品者と作品名が記されている。たとえば体験コーナーを訪れた人向けにいくつかの作品について、技法や作品のテーマ等の解説をパネルにして掲示したら、より作品に興味を抱いてくれるかもしれないと感じた。</li> <li>・体験コーナーでは、今年から全席をイスにしたため多少敷居が下がっているように感じた。</li> <li>・体験の内容は、基本的な線の引き方を学んだ後、花を描くというもので、比較的短い時間で作品を描くことができ、水墨画に親しむための入口として良い体験であると感じた。</li> </ul>



(2)

行事名	第23回千葉県謡曲大会
日時	【能楽体験講座】平成30年7月～9月（1時間程度×3回実施） 【公演】平成30年10月6日（土）
会場	【能楽体験講座】新宿公民会、小中台公民館、千葉県文化センター 【公演】千葉県文化センター アートホール
主催団体	千葉県能楽連合会
補助金額	200,000円
事業概要	能楽連合会会員による謡曲、仕舞、舞囃子、小鼓の公演、能楽展示会及び能楽解説を実施した。また、事前申し込みにより、「謡曲」、「仕舞」、「小鼓」の3コースによる能楽体験講座を実施し、当日の公演に出演した。公演鑑賞料、受講料ともに無料。
事業実績	【能楽体験講座】参加者延べ30名（謡曲9名、仕舞11名、小鼓10名） 【公演】出演者103名（うち体験講座参加者の発表による出演者16名） 来場者250名
主催者感想等	・数度にわたる体験講座を通じて能楽の「基本の基本」の習得に加え成果を舞台上で発表する形がほぼ定着化してきた。今後更に進化させていきたい。 ・全国的にも先駆けて「アマチュア団体による能楽講習・講座の制度化・恒常化」を確立することが出来たと自負している。
視察所見等	【能楽体験講座について】 ・講師は4名おり、一人一人に細かいところまで丁寧に指導を行っていた。 ・謡曲大会に出演しなくとも、体験講座のみの参加でも可能かつ無料ということもあり、伝統芸能を気軽に体験できるものとして貴重であると感じた。 【公演について】 ・体験講座の受講生の発表では子どもの参加もあり、複数のコースに重複して出演している人も見受けられた。 ・体験講座の受講者は服装について特に指定がないのか、私服の方がほとんどであった。会員と思しき人は和服だったため、変に目立っているような感じがした。普段しない服装ができるという点も特別感が生まれ発表会に対するモチベーションに影響する可能性があるため、工夫ができると良いと感じた。 ・客席には出演者と思われる人がちらほらおり、一般の観客はやや少ないように感じた。 ・展示物はロビー中央に目立つ形で配置されており、鑑賞しやすかった。また、実際に使用している道具を間近で見ると様々な装飾が施されていることがわかり、能楽を知る良い機会だと思われる。



(3)

行 事 名	第 23 回国際音楽の日コンサート
日 時	平成 30 年 10 月 6 日 (土)
会 場	市民会館 大ホール
主 催 団 体	千葉県音楽協会
補 助 金 額	200, 000 円
事 業 概 要	市にゆかりのあるピアノ演奏者、市内で活動するプロの器楽団とプロ独唱歌手、公募による合唱団の編成で、宮沢賢治にまつわる楽曲等を演奏した。
事 業 実 績	出演者 29 名 (一般参加者 21 名) 来場者 446 名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none"><li>・宮澤賢治と音楽という新たな切り口を、余計な解説は加えずにお客の想像に訴える構成としたことにより、聴衆に強いインパクトを与えることが出来た。</li><li>・千葉県音楽協会は市民による市民のための市民のクラシック音楽というコンセプトで運営している。</li><li>・今回はその狙いに合った公演となり、参加した多くの市民の皆様の方に強い印象を残すことが出来たと感じている。</li></ul>
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"><li>・席はおおよそ埋まっているような印象を受けた。</li><li>・単なる演奏会ではなく、演奏や合唱の合間に朗読、演技、演出をはさみ、適度に説明を加えながらわかりやすく宮沢賢治にまつわる演奏を行っていた。</li><li>・解説とパンフレットの説明などよりわかりやすく伝える工夫がされていた。</li><li>・公募者で構成された合唱団とは生き生きとした合唱で迫力があつた。</li><li>・ライト等演出で幻想的なステージの中、プロと共に大勢の観客の前に発表したことは非常に貴重な体験であるように見受けられた。</li></ul>



(4)

行 事 名	第 65 回千葉市民音楽祭
日 時	平成 30 年 11 月 11 日 (日)
会 場	千葉市民会館大ホール
主 催 団 体	千葉市音楽協会
補 助 金 額	188, 000 円
事 業 概 要	千葉市を拠点に活動する合唱、器楽の団体が、30 グループ集まって、午前午後の部に分かれて演奏。日頃の練習の成果を披露した。
事 業 実 績	出演者 621 名 (参加グループ…合唱団 26 グループ、器楽等 4 グループ) 来場者 450 名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none"><li>・単独の演奏会を開けない団体の、貴重な発表の場として、存在感がある演奏会となった。</li><li>・より参加団体を増やすために、広報活動、手段を、更に幅広くしていく必要がある。</li><li>・弊会のホームページの拡充と、使いやすさを図りたい。</li><li>・参加者、観客の高齢化が見えるので、若い人たちへの浸透を図りたい。</li></ul>
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"><li>・客席は 1 団体の演奏あたり 4 割程度埋まっている印象だった。</li><li>・出演団体と、その関係者 (家族・友人) が大半を占めると思われる。一団体の演奏が終わるごとに観客の入れ替わりが多かれ少なかれあり、目当て以外の団体の演奏も見たくなるような工夫があると良いと感じた。</li><li>・合唱のみではなく、指笛やブサルター、リコーダーなどバラエティに富んだ演目は聴き手に刺激を与える良い構成であると感じた。</li><li>・出演団体が登壇後、演奏前に自己紹介や演目の解説があり、聴き手は聴く体制を作りやすかった。</li><li>・ゲストの演奏後に起きた拍手が一番大きかった。観客 (出演団体、一般客) の入りもよく、座席は 5 割程度埋まっていた。</li></ul>



(5)

行 事 名	第3回 MOA 美術館ちば児童作品展
日 時	<全体展示>平成30年10月23日～28日 <表彰式>平成30年10月28日 <巡回展・地域展>平成30年11月～平成31年1月
会 場	<全体展示>千葉市美術館 市民ギャラリー2 <表彰式>千葉市美術館 さや堂 <巡回展・地域展>そごう千葉店、千葉市内区役所 等
主 催 団 体	MOA 美術館ちば児童作品展実行委員会
補 助 金 額	188,000円
事 業 概 要	市内小学生を対象とした絵画の作品展
事 業 実 績	出展者1,291名 来場者約4,500名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none"><li>・各展示会場で作品を鑑賞された方の喜びの声が多数あった。</li><li>・その反響を表彰式や小学校を通して、子ども達に伝えることによって、自分の作品が人の役に立つという自己肯定感を高め、人や社会のためになることの喜び、大切さを児童が感じてもらえる機会となり、コンセプトである「子ども達の生きる力を育むちばをめざして」を育むことの一助となったと受け止めている。</li></ul>
視 察 所 見 等	<p><b>【全体展示および表彰式】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・入選者の友達らしき子どもとその保護者が来場しており、幅広い世代の層が来場しているように見受けられた。</li><li>・表彰式も子どもたちに加え保護者も付き添うことから、多くの人が来場しているように感じた。</li><li>・ただ、展示、表彰式含め純粋な一般の観客はあまりいないように思えたため、地域展で一般の方にみてもらう機会を設けることは必要だと思われる。</li></ul> <p><b>【地域展示】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・平日の昼間ということもあり、人通りが少なかった。</li><li>・ただ、通行人の多くが目を向けており、高齢者や子ども連れの中には、目を見ながら話をしている人たちもいた。</li><li>・じっくり見るというよりは通りの際に見かける程度のものでなくなってしまいそうだが、休日は多くの人が見ることになると思われる。</li><li>・入賞者にとってはモチベーションにも繋がるのではないか。</li><li>・展示されている絵は入賞作品のみで、作品には学校・学年・名前と作者の感想が添えられていた。</li><li>・作品を見た人から感想をもらえるようアンケートがあっても良いかもしれない。</li></ul>



(6)

行 事 名	ママうたサロン Hugmi
日 時	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日（毎月第 1、第 3 月曜日実施）
会 場	黒砂公民館
主 催 団 体	ママうたサロン Hugmi
補 助 金 額	50,000 円
事 業 概 要	子育て世代を対象とした合唱やわらべうた等を行うサロンを開催。 サロンに加え市内開催の演奏会にも出演し発表も行う（年複数回参加）。
事 業 実 績	<サロン参加者>延べ 727 名 <コンサート出演>延べ 459 名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none"><li>・幅広い世代が気軽に参加できる音楽活動として 地域に根差したサロンを継続的に開催することができた。</li><li>・補助金を頂くことで、コンサートに多数参加することが出来、多くの市民に子どもと母たちの歌う姿を披露することで、観客にとっても、参加者にとっても育児と音楽の掛け算による可能性をお伝えできたのではないだろうか。</li><li>・毎回のサロンでもコンサートでも「すばらしい活動だ」「楽しかった」「育児中の心の拠り所になっている」という感想を頂く度、身近にそして気軽に音楽に触れ、参加できる継続した拠点を地域に設けることは、文化振興の面でも有意義なことではないかと強く感じた。</li></ul>
視 察 所 見 等	<サロン> <ul style="list-style-type: none"><li>・初参加の人もおり、始めに自己紹介、最近の悩み等を共有した後スタートとなった。</li><li>・発声練習や手遊び歌を行い、その後発表会に向けての合唱や振付の練習をおこなっていた。</li><li>・終始和やかで暖かい雰囲気であり、気軽に合唱に楽しむ場として機能していると感じた。</li><li>・ママさんの憩いの場として貴重な機会となっているようで、活動としては非常に良いものであると感じたが、文化芸術の振興というよりは、子育て世代のリフレッシュのような福祉的な面が強いように感じた。</li></ul> <発表公演> <ul style="list-style-type: none"><li>・musica del sole（ムジカデルソーレ）というアマチュアのアーティストや団体の演奏、コーラスの発表会。ママうたサロン Hugmi は 1 団体として参加。</li><li>・大人だけでなく子どもも檀上に上がり合唱し、元気のある発表であると感じた。</li><li>・観客に手拍子を煽るなど一緒に盛り上げるよう工夫していた。</li><li>・会場は終始和やかな雰囲気、家族や親戚と思しき人が撮影をしていた。</li><li>・他の出演者を見にきた観客も見ることになるので、団体の活動を知ってもらう機会として良いものだと思う。</li></ul>



**2 市民育成事業**

申請事業数 1 事業、採択事業数 1 事業

行 事 名	千葉ジュニアオペラ学校&クラシック音楽芸術アカデミー2018
日 時	【講義】平成 30 年 7 月 14 日～10 月 14 日 【公演】10 月 6 日
会 場	【講義】真砂コミュニティセンター 【公演】蘇我コミュニティセンター
主 催 団 体	小空間オペラ TRIADE
補 助 金 額	300, 000 円
事 業 概 要	主に小中学生を対象とし、公募により夏休みの期間、専門講師によるオペラや舞台の講義を実施。合唱や合奏、声楽の指導もあり。また、希望者はプロと一緒に公演に出演した。
事 業 実 績	【講義】参加者 ○小学生：25 名 ○中学～一般（講座単科受講） 延べ 12 名 【公演】出演者 24 名 出演生徒 16 名 来場者 199 名
主催者感想等	・高校生、大学生、そして一般の市民という多くのボランティアによって、子どもたちの見守りが出来たこと。千葉市に関連する講師によって子どもたちへ音楽芸術への道を示せたこと。子ども達がいつも笑顔で、怪我もなく参加できた点。参加児童の家族からの協力を得られ、とても温かい時間を過ごせことが評価できる。
視 察 所 見 等	【講義】 ・オペラの演出について学ぶ講義形式の授業であった。 ・参加者は 15 名程度参加していた。小学校低学年から高学年、男女混在で幅広く参加していた。 ・講義中、先生は子どもたちに問いかけることが多く、相互にコミュニケーションをとりながら授業を進めていた。子ども達も積極的に声を発していた。 【公演】 ・ほとんどの座席が埋まっており、出演者する子どもの友達や保護者などが観覧しにきていたためか、年齢層も幅広かった。 ・子ども達は公演の一部で主に合唱を披露していた。きれいで統制がとれており、プロの出演者と一緒に舞台上上がっていてもそんな色ない発表に見受けられた。 ・また、ステージにある小道具も子ども達が作成したと思しきものがあり、自分たちで舞台を作り上げた達成感があったように見受けられた。



### 3 市民参加特別事業

申請事業数 2 事業、採択事業数 1 事業

行 事 名	第 13 回千葉市民による第九特別演奏会
日 時	平成 30 年 12 月 9 日
会 場	千葉県文化会館大ホール
主 催 団 体	千葉市音楽協会
補 助 金 額	1,500, 000 円
事 業 概 要	オーディションにて選抜されたソリスト、市民の合唱団およびオーケストラによる編成で行う「第九」演奏会。
事 業 実 績	出演者 280 名 来場者約 800 名 公募による合唱団 140 名、ソリスト 4 名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの市民に第九の合唱団として、オーケストラのメンバーとして参加頂くことができた。</li> <li>・市民にハイレベルの第九をお聴かせすることができた。</li> <li>・3年に一度のこの演奏会に参加を希望する方が多くいるので、今後も継続していく。</li> <li>・ただし、会を重ねるごとに参加者の高齢化が進み、リハーサルで体調不良を訴える者も出るなど、高齢者対策が益々重要となる。</li> </ul>
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前列はほとんどが空席であったが中～後列および 2 階席は十分埋まっており、年齢層も高齢者が多かったものの、普段の演奏会では見られない比較的若い層の観客も見受けられた。</li> <li>・オーケストラは非常に迫力のあるものであり聴きごたえがあった。</li> <li>・公募の合唱団の中には学生服の人も数名おり、幅広い年代の市民が参加していることが窺えた。</li> <li>・公募の合唱団とプロの歌手との合唱は、大人数にも関わらず非常にマッチしているように感じ、練習の成果が発揮されているように見受けられた。</li> <li>・演奏会終了後は拍手が鳴りやまなかった。観賞者にとっても特別な演奏会となったようだった。</li> </ul>

